幼児歯科保健事業の効果

保健所保健課
○河本幸子，澤谷紀子，妹尾裕美，藤田幸子

【目的】

岡山市では，平成10年度から，満1歳から就学前までの幼児を対象に，歯科検診およびフッ素塗布(有料，希望者のみ)を実施している。

今回，この事業によるフッ素塗布回数や受診のパターンが3歳6か月時点でのう蝕罹患状況に及ぼす影響を明らかにすることを目的として，調査を行った。

【対象と方法】

平成12年度の三歳児健康診査を受診した幼児のうち，1歳6か月児健康診査の時点でう蝕を有していなかった幼児4,096名を分析対象とした。

保健所でフッ素塗布を受けたことのある幼児を1歳6か月児健康診査(表中，1.6健診)の前後のフッ素塗布回数別に10群に分け，三歳児健康診査時の1人平均う歯数およびう蝕抑制率を求め，比較を行った。

【結果】

各群の結果を表1に示す。10群のう歯数をKruskal-Wallis検定により比較したところ，有意差を認めた（p=0.000)。さらに，2群ずつ，Mann-Whitney検定を行い，得られたp値を表2に示す。D群およびJ群のう歯数は，A群に比較して，有意に低い値を示した。

表1　受診パターン別の人数とう蝕罹患状況

	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群
フッ素塗布回数										
1.6健診まで(回)	0	0	0	0	0	1≦	1≦	1≦	1≦	1≦
1.6健診以降(回)	0	1	2	3	4≦	0	1	2	3	4≦
人数（人）	3,330	230	135	87	90	75	49	24	27	49
1人平均う歯数(本)	1.38	1.18	1.15	0.55	0.81	1.00	0.88	0.63	0.37	0.29
う蝕抑制率(%)	—	14.5	16.7	60.1	41.3	27.5	36.2	54.3	73.2	80.0

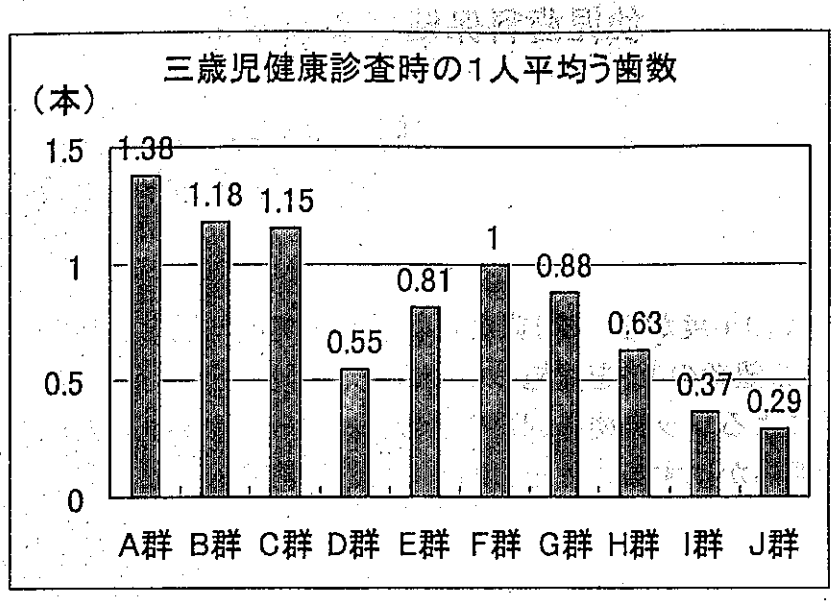


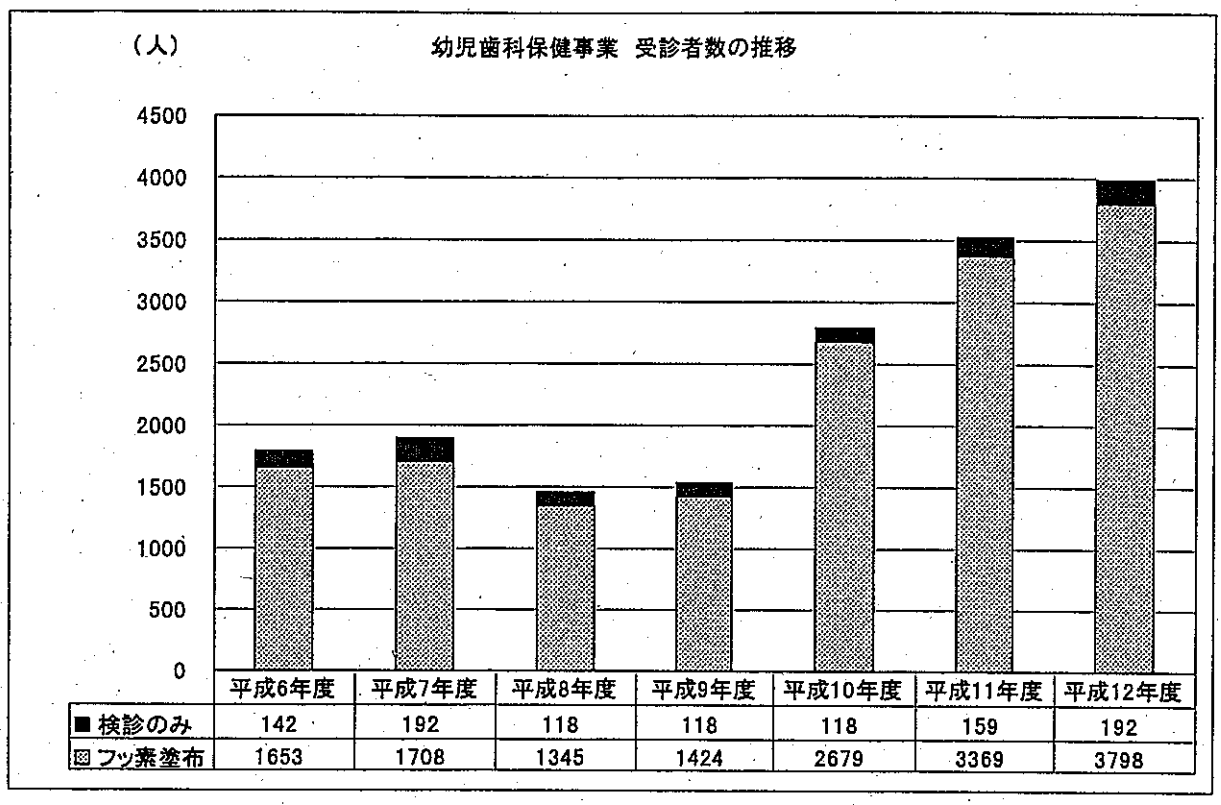
表2　Mann-Whitney検定結果

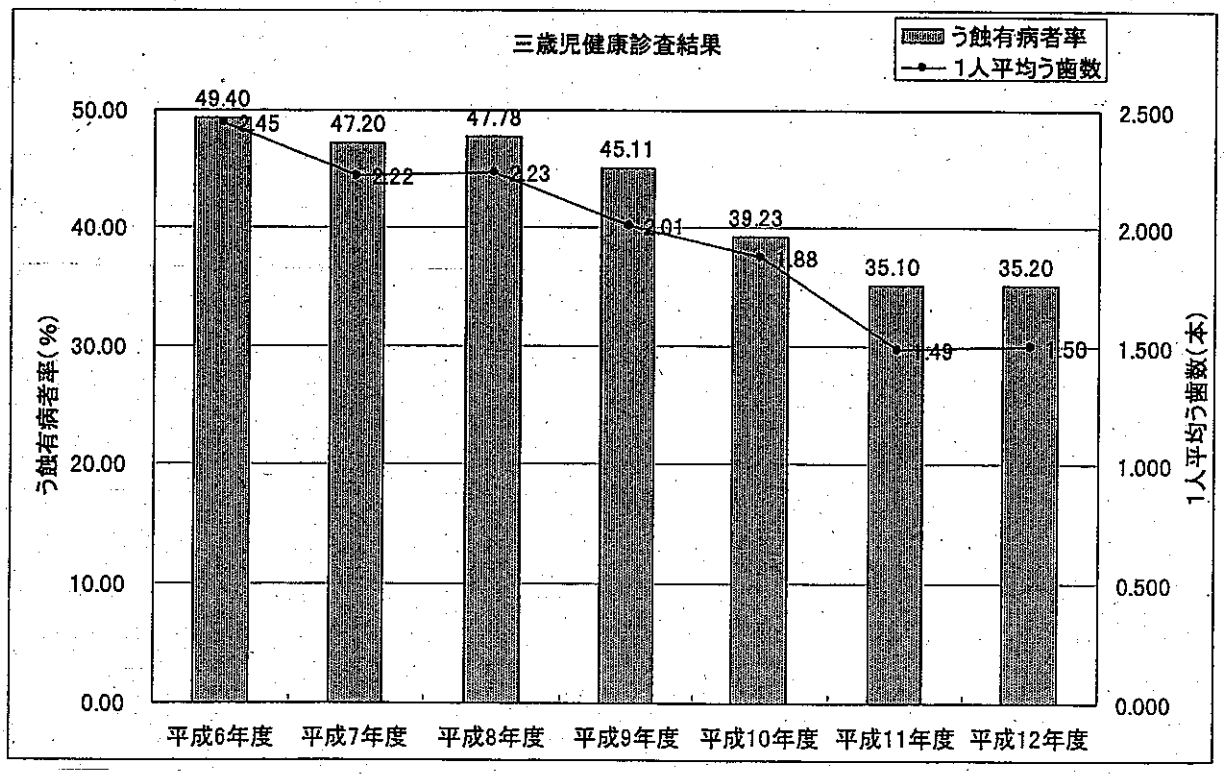
	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群	I群	J群
A群	.162	.717	.000	.135	.174	.441	.143	.046	.001
B群		.540	.002	.610	.628	.941	.304	.137	.007
C群			.001	.326	.355	.617	.223	.081	.003
D群				.018	.026	.021	.351	.570	.828
E群					.979	.742	.480	.236	.023
F群						.747	.513	.265	.030
G群							.386	.187	.021
H群								.744	.313
I群									.472

【考察】

平成9年度の日本公衆衛生学会総会で，岡山市における2歳児歯科検診は，三歳児健康診査時の歯科保健行動には効果を及ぼしていたが，う蝕罹患状況には効果を及ぼしていなかったことを報告した。その後，繰り返してフッ素塗布を受けることができるように事業の対象者枠を拡げ，実施場所は，公民館・支所単位で行っていたものを新しく開設した6保健センターで行うように，実施時間は，午前から午後に変更した。その結果，事業の合計実施回数は減少したが，延べ受診者数は増加し，フッ素塗布を希望する者の割合も増加した。

今回の結果から，フッ素塗布を受けた者は，受けていなかった者に比べ，三歳児健康診査時のう歯数が少ないことがわかった。特に，1歳6か月児健康診査以降，定期的に受診している幼児にう蝕が少なかった。今後も，定期的に事業の見直しを行いつつ，確実にう蝕を減少させるような，効果的な事業を実施していきたい。





【学会発表】

学会名　第60回日本公衆衛生学会総会

年月日　平成13年11月2日

発表者　河本幸子

題　名　幼児歯科保健事業の効果